

事業名称	SDGs で育む<城の西>シビックプライド
団体名・代表者	城の西エリアマネジメント準備会 代表世話役 米谷啓和
協働の相手方	地方創生室、城西地区地域自治会、兵庫県立大学地域創造機構、NPO 法人スローサエティ

目的	住民が<城の西>エリアに対して「愛着」や「誇り」を持ち、SDGs をツールとし、まちを構成する一員として人にも地球にも優しく暮らし続けているまちをつくる。 社会・環境問題の解決につながる活動に主体的に参画できる地域モデルをつくる。
内容	<p>(1) <u>社会・環境課題が自分ごとになる（SDGs 目標7・12・15）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみを出さない・お金だけのつながりじゃない「ヒメジくるくる市」を開催した。</li> <li>・「くるくる商店」を設け、必要な量だけを買うことができる量り売りを定期的の実施した。</li> <li>・ロケットストーブづくり実習を行い、エコシステムから持続可能な暮らしを学んだ。</li> <li>・城の西まぐまのサイトも活用し、城の西にある小商いの店を応援した。</li> </ul> <p>(2) <u>シビックプライド醸成の拠点ができる（SDGs 目標4・11）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館で「ヒメジくるくる市」の開催を希望していたが、条例により開催できなかった。</li> <li>・姫路市内の自治会で初めて「城西地区連合自治会」でSDGs 宣言を掲げた。</li> <li>・公園や学校など公共の場で、管理がしやすく景観が損なわれない剪定講座を実施した。</li> <li>・城の西の丘や街路樹などを見て楽しむ「森の案内人三浦豊さんと歩く城の西」を開催した。</li> <li>・城の西のシンボルである男山に植わっている多様な樹種を学べる樹木エストを作った。</li> </ul>
事業経過	7月：「SDGs 入門セミナー・宣言」実施、9月：ゼロウェイストのマルシェ視察、10月：「剪定講座」実施、11月：「ヒメジくるくる市」「ロケットストーブ講座」実施、12月：量り売り店開始、1月：「グリーンウォーキング」実施、2月：「樹木エスト」作業、3月：「城の西 森ものがたり」冊子完成、通年：小商い応援
事業の効果	人にも地球にも優しく暮らし続けたいまちをつくるために、SDGs をツールとして<城の西>に住まう人々がまちづくりを自分ごととして捉え、社会・環境問題の解決につながる活動に主体的に参画できる地域モデルをつくった。持続可能な暮らしに向けた具体的な活動をすることで、やりたくても機械がなかった住民たちや、意識を持ち始める人が現れたことは大きな成果だった。
今後の展望	一年度だけで終わらず、継続的に「ヒメジくるくる市」「剪定講座」などを開催し、持続可能な暮らしがより、住民の普通として定着して行くように続けていく。また、イベントの時だけの効果ではなく、その後、各家庭に持ち帰ってからも、普段の暮らしの中で取り組めるような、具体的な実践方法（雨水活用、多様な生き方を受け入れる、生ごみコンポストの活用など）を持ち帰られるような取り組みが必要である。

### 【実施団体の事業総括・感想等】

城西地区連合自治会でSDGs 宣言を掲げたことをきっかけに、すべてのイベントにSDGs マークを付けて告知&開催をした。そうすることで、地域の方からすれば、具体的に目に見える形で持続可能な社会や環境につながる活動になっているということが伝わったようだ。

### 【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

コロナ禍により縮小していた地域イベント再開の機に乗じ、SDGs を意識したイベントを開催することは、普及啓発の点で効果的だと考えられる。大がかりなイベントよりも、気軽に足を運びやすい形で開催したのも重点エリアを意識できていた。一般的なフリーマーケットにとどまらず、エコシステムやシビックプライドの観点を取り入れたのは工夫の光る点であった。